

山田顯義先生(胸像)ここに立つ



発行所

日本大学法学部校友会広報委員会
東京都千代田区三崎町2-3-1
郵便番号: 101 日本大学法学部内
電話 (265) 3271
発行責任者 小笠原 計三

胸像
完成
記念号

撰

文





白百合三層樓の法学院校舎——大正九年
四月撮影

山田顕義 幼名市之丸、「周防山口」の人幼にして学を好み、兵事に精し、維新の際藩師に隊長として東北の諸藩を征す、年猶壯なれども兵を用ふること神の如し、歴進して陸軍中將に到る。又司法省に出仕して法律に通ず、法典を制するに与って力あり、司法大臣に到り正二位勲一等伯爵に叙す。明治二十四年疾を以て辞す。枢密顧問官議定官は故の如し、二十五年郷里山口に帰省して病を療す、帰京の途生野銀山に到り山中になつて遠かに卒倒して起たず、時に十一月十四日なり。享年四十九。（大日本帝国議会誌第一卷一一三七頁）

三十四才にして陸軍中將となり、斯面で異才を放つた山田顕義が軍人から司法畑へという鮮やかな転換をなした機縁は、明治四年から六年にわたる歐米の視察にありました。

山田はとくに、フランスがナポレオン民法によって国内を整然と統治していることにそれが軍人出身のナポレオンによつて行われたことは、わが身にくらべてその心を強く動かしました。そして、それまでの軍事的権力国家を法によって統治する近代的法治国家にまで高めなければならぬという認識と決意をもたれたようであります。

若き司法大臣として大日本帝国憲法の制定に与った山田は、周到綿密にして鋭敏、行動の人であります。そして、日本

人幼にして学を好み、兵事に精し、維新の際藩師に隊長として東北の諸藩を征す、年猶壯なれども兵を用ふること神の如し、歴進して陸軍中將に到る。又司法省に出仕して法律に通ず、法典を制するに与って力あり、司法大臣に到り正二位勲一等伯爵に叙す。明治二十四年疾を以て辞す。枢密顧問官議定官は故の如し、二十五年郷里山口に帰省して病を療す、帰京の途生野銀山に到り山中になつて遠かに卒倒して起たず、時に十一月十四日なり。享年四十九。（大日本帝国議会誌第一卷一一三七頁）

山田顕義 幼名市之丸、「周防山口」の人幼にして学を好み、兵事に精し、維新の際藩師に隊長として東北の諸藩を征す、年猶壯なれども兵を用ふること神の如し、歴進して陸軍中將に到る。又司法省に出仕して法律に通ず、法典を制するに与って力あり、司法大臣に到り正二位勲一等伯爵に叙す。明治二十四年疾を以て辞す。枢密顧問官議定官は故の如し、二十五年郷里山口に帰省して病を療す、

帰京の途生野銀山に到り山中になつて遠かに卒倒して起たず、時に十一月十四日なり。享年四十九。（大日本帝国議会誌第一卷一一三七頁）

三十四才にして陸軍中將となり、斯面で異才を放つた山田顕義が軍人から司法畑へという鮮やかな転換をなした機縁は、明治四年から六年にわたる歐米の視察にありました。

山田はとくに、フランスがナポレオン民法によって国内を整然と統治していることにそれが軍人出身のナポレオンによつて行われたことは、わが身にくらべてその心を強く動かしました。そして、それまでの軍事的権力国家を法によって統治する近代的法治国家にまで高めなければならぬという認識と決意をもたれたようであります。

若き司法大臣として大日本帝国憲法の制定に与った山田は、周到綿密にして鋭敏、行動の人であります。そして、日本



白百合三層樓の法学院校舎——大正九年
四月撮影

本的なものに深い理解をもつてゐた山田が改めて西洋的なものの移入に心血を傾注し、日本の近代化を推進しようと考えたとき、保守派の頑迷と対決することを有名な法典論争と呼ばれるものであります。

いうまでもなく明治政府は一つには復古的な精神に支えられておりました。そのことは神祇官のような組織を太政官の上にすえていたことでもわかります。保守的な勢力はたいへんに強力であり、フランス民法の移入はその意味で批判の対象となりました。

そのころ、日本に影響を与えていた法学は、一つは英法系で、当時の法学者はほぼ二種類ありました。一つは英法系で、当時の法学者はほぼ二種類ありました。一つは英法系で、当時の法学者はほぼ二種類ありました。

前述いたしました日本的な復古主義とこの英法的な漸進主義とは握手して、商法および民法の施行延期という一大政治運動が展開されました。そして、山田民法はついにその施行を阻まれてしまつたのです。

山田の晩年の仕事、そしておそらくそれこそその最大の功績ともいえる仕事は私立学校の創設にかかるものであります。

山田は、かつて松下村塾に学び、世に進化：進む所の道を講ずることであります。これを端的にいえば、一つは日本風俗、言語の如き、國体となるべき要用なる部分について講究することであり、もう一つは、「旧事を考えるなら、目今に従事して如何ということを考へ」「日新の原点に帰ることであり、他はその基礎に立つて時勢を尽すことにはかなりません。そして、この二つ目の構想に基づいて、明治二十二年に設立されたのが日本法律学校。すなはち現在の日本大学であります。これに遅れること一年にして第一の構想が実現され、これが国学院となつたのであります。

日本大学と山田顕義先生

副総長 高梨公之

の二派に区分できます。そして、そのうち英法に親しんだ人びとは、慣習法を尊重する、いわゆる歴史法学派の立場をとつておきました。法は民間に慣行されるところから自然に形成されるべきものであつて、人為的に制定強行されるべきものではないというのがその主張であります。

ところが、フランス法で育つた人びとは、人類に共通する現性を信頼し、法も力もそれであり、そのため裁判官に外国人を雇ひ入れようという窮余の策も考えられた程であります。

山田はこのことを法典制定という正道を通じて実現しようとしたのであります。しかし、山田の指揮のもとにこの大事業を推進させました。夜を日に繰り努力を重ねて、わざか二年足らずで法典は完成され、フランスを訪れ、そのことを機縁として、いわば温故知新的途といつてよいかも知



大正十二年九月一日、関東大震災で白百合の法学院校舎は崩壊、鉄門だけが残った跡地にバラック校舎が建てられた。

司法畠に転じた人であります。そして何よりもナボレオン民法は当時におけるも

みえた廟堂のなかに在つて、山田はこれつとも優れた法典でもありましたので、これらのさまざまな要素がからみあって山田は結局フランス民法を基礎として日本民法をつくりあげたわけであります。

しかし、それが英法派の氣に入らなかつたことは当然であります。

前述いたしました日本的な復古主義とこの英法的な漸進主義とは握手して、商法および民法の施行延期という一大政治運動が展開されました。そして、山田民法はついにその施行を阻まれてしまつたのです。

いうまでもなく明治政府は一つには復古的な精神に支えられておりました。そのことは神祇官のような組織を太政官の上にすえていたことでもわかります。保守的な勢力はたいへんに強力であり、フランス民法の移入はその意味で批判の対象となりました。

そのころ、日本に影響を与えていた法学は、一つは英法系で、当時の法学者はほぼ二種類ありました。一つは英法系で、当時の法学者はほぼ二種類ありました。

前述いたしました日本的な復古主義とこの英法的な漸進主義とは握手して、商法および民法の施行延期という一大政治運動が展開されました。そして、山田民法はついにその施行を阻まれてしまつたのです。

この英法的な漸進主義とは握手して、商法および民法の施行延期という一大政治運動が展開されました。そして、山田民法はついにその施行を阻まれてしまつたのです。

前述いたしました日本的な復古主義とこの英法的な漸進主義とは握手して、商法および民法の施行延期という一大政治運動が展開されました。そして、山田民法はついにその施行を阻まれてしまつたのです。

前述いたしました日本的な復古主義とこの英法的な漸進主義とは握手して、商法および民法の施行延期という一大政治運動が展開されました。そして、山田民法はついにその施行を阻まれてしまつたのです。



こよなく祖国を愛す

日本大学総長・理事長
日本大学校友会会长 鈴木 勝

日本大学創立八十五周年の記念事業の一環として、法学部及び法学部校友会が学祖山田顕義先生の胸像を建立することになった。

私も本学にお世話になつて約五十有余年、特に戦後十年くらいの間に先生のご尊名を見聞することのほか、私が口述した回数は数えきれない。もちろん、私は先生のご尊顔にはお写真以外に接したことがないわけですが、それより受けたイメージは、あごひげをたくわえたいかめしい軍服姿であり、現在の私よりもずっと年輩のよだれ感である。ところが先生の晩は四十九歳だったとのことである。やっぱり偉人はそれなりに貴賤があるものである。

今回、胸像を作製するに当たつて、多

くの資料の中に和服姿で無髭のお姿を初めて拝見し、今までのイメージとは全く一変し普通の紅顔の美青年である。胸像は多分このお姿に彫刻された筈である。

先生は、陸軍中将で軍略には勝れた軍人であり、明治維新に起つた実戦に参加され、当時、京都守護職にあつた会津藩主の松平容堂を鶴ヶ城攻略し、その東征の指揮に當たられた。

特に法学者として教育者であり、司法大臣の要職にも就かれ、優れた政治家でもあられた。短い生涯の中で実際に偉大な功績を残された。先生のご生涯を通じて感じることは、一貫して祖国をこよなく愛された愛国心の旺盛な方であったことがうかがわれる。

武土がすべて武人であるとすれば、これも武人の文事ということになるほかないし、第一武人としての閑歴・勳功が尋常でないのだが、先生をそのどちらの範疇に入れるべきか、わたしには決しきれぬ。しかも、その文事は詩文や書に止まらず、フランス法の移入、近代法治国家の建設という、政治の根幹にまで直参している。槊を横たえて詩を賦したとい

うより、詩人が矛を執った観もあるし、しかもその詩は、ローマ人ではないが法でもあつたわけだ。とにかく異色である。伝統や歴史に理解と愛憎を持つつ、近代法の継承に大膽な巨歩を踏み出したこともまたことに著しい。皇典講究所に示した熱意と、ナボレオン法典に注いだ愛著とが、二つながら先生の小がらな体内に

淑していたが、人がはよく似てじみであり、ポーズする姿勢はない。病身のせもあり、もつて、脚光を浴びながら致仕の希望を持ち続ける。数え年で四十九歳といふ若さで世を去った先生のことを、わたしたちは特別の縁り深い者として、忘れがたくだいじにしていきたいと思う。

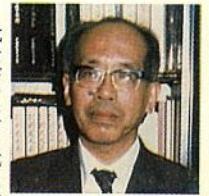
義卿、二十一回猛士なき後、松菊に私淑していくが、人がはよく似てじみであります。しかし、その詩は、ローマ人ではないが法でもあつたわけだ。とにかく異色である。伝統や歴史に理解と愛憎を持つつ、近代法の継承に大膽な巨歩を踏み出したこともまたことに著しい。皇典講究所に示した熱意と、ナボレオン法典に注いだ愛著とが、二つながら先生の小がらな体内に

で、渦となつて流れていったようだ。司法省学校以下、自ら創立した二つの学校に至るまで、学校についての関心はだれにも負けない。号していう空齊の齊はも

ちろん雅号に付した接尾語だろうが、少壯書齊に籠り得ずして戎軒を事とせざるを得なかつた歎きがたゆたつていはしないか。

昭和五十二年十一月三日、明治天皇のお生れになつたこの佳き日に、法学部正面の前庭は単なる風景を脱し、教示の祖を日々仰ぐする地となつた。法学部にとって、晴がましくもこの上ない快挙である。

衷心より感謝申し上げる次第である。



忘れがたい縁り深き人

日本大学副総長 法学部校友会常任顧問 高梨公之



胸像寄贈に感謝

日本大学法学部長事務取扱 小堀進



わが法学部の正面玄関わきに、前庭がつくられ、キャンバスの風格を整えたの歩を踏み出した明治二十二年、日本独自の法体系の確立を基幹として、この地に開校されたのが日本法律学校であった。この由緒ある地に、創立八十五周年を記念して、法学部校友会より寄贈されることは、まさに至誠の人を憧憬するにふさわしい母校愛と熱意の結晶である。

学生に暖かいお心を

日本大学法学部校友会会长

高橋英吉



日本大学法学部校友会会长

高橋英吉

私達校友は、日本大学卒業生という看板を背負い、実社会においてその地歩を確いておりますような次第で、それだけに母校の発展と後継学生諸君の奮闘に対しては並々ならぬ関心をいたしております。

創立者山田顕義先生のお気持は、それ以上に大きなものがあろうかと拝察いたしました。先生は、十一歳にして松下村塾に入り、師吉田松蔭によって訓育されたのであります。安政五年五月松蔭が門弟山田少年に与えられた詩、俗流はともに譲り難いです。

立志は特異を尚ぶ。
立志は死後のはまれを思わず。

敗者への至誠の眼

日本大学副理事長 日本大学校友会本部長

柴田 勝治



先生をお写真で拝見すると、立派な口

髭、ほお鬚、あご鬚をたくわえ、威厳に満ちた顔だちをされているのに、眼には

が先生生涯の指針となつたものと思います。日本全国あるいは海外から、志を立てて法学院の校門をくぐる春秋に富む若人

が直ちに、血のぬくもりをもつて伝わつてこないところに、もの足りなさを感じるのです。

先生は松下村塾の逸材であるが、單な

うか。若干の資料はあつても、それ

が直ちに、血のぬくもりをもつて伝わつてこないところに、もの足りなさを感じるのです。

先生は松下村塾の逸材であるが、單な

うか。若干の資料はあつても、それ

わが心の山田顕義先生

山口県選出衆議院議員

国会桜門会会長 受田 新吉



山田顕義先生は明治の元勲の中では、最も若くして最も高潔な人格の持主として知られています。

高級軍人として部下から敬愛される名指揮官であったことは、西南の役に於ける旅団長ぶりが語り草になつてゐることで実証せられる。司法卿司法大臣としての卓越せる政治家ぶり、法典制定への法律家としての熱心なとりみ振りなど、近代日本の法制史に不動の基盤を培われた。

この智徳兼備の素晴らしい偉才が日本大

学生を創建され、そして今日榮えゆく日本大学の学祖として、大学に職を奉ずる者、学ぶ者に誇り高い無限の影響力を与えて下さつてゐること、何という有難いこと

大学の学祖として、大学に職を奉ずる者、学ぶ者に誇り高い無限の影響力を与えて下さつてゐること、何という有難いこと

がまた母校の学祖であるよろこびの二重奏に後にづく者とともにこの師を仰ぎ今後とも感動の人生を貫きたい。

誇り高い無限の影響

山田顕義先生は明治の元勲の中では、最も若くして最も高潔な人格の持主として

大学の学祖として、大学に職を奉ずる者、学ぶ者に誇り高い無限の影響力を与えて下さつてゐること、何という有難いこと

がまた母校の学祖であるよろこびの二重奏に後にづく者とともにこの師を仰ぎ今後とも感動の人生を貫きたい。

大学の学祖として、大学に職を奉ずる者、学ぶ者に誇り高い無限の影響力を与えて下さつてゐること、何という有難いこと

がまた母校の学祖であるよろこびの二重奏に後にづく者とともにこの師を仰ぎ今後とも感動の人生を貫きたい。